

3 年齢階級別の自殺者数の推移

年齢階級別の自殺者数の推移について男女別にみると、人口動態統計によれば（第1-6図）、男性については、昭和30年前後に15～34歳の階級が、60年前後に35～54歳の階級が、平成10年以降に45～64歳の階級がそれぞれ大きな山を形成している。女性については、昭和30年前後に15～34歳の階級が山を形成した後は、男性のような大きな変動はみられない。

昭和30年前後は男女とも15～24歳及び25～34歳の階級で自殺者数が増加しており、先述したとおり戦後の社会の価値観の変化や戦時体験の影響とする説もある。60年前後は男性

の35～64歳の働き盛りの中高年世代の自殺者が多く、プラザ合意以降に為替はドル安円高方向へ推移した中での不況が原因であるという説もある。

平成10年の急増では、特に男性の25～74歳の各階級で大きく自殺者が増加しているが、その後は25～34歳、35～44歳の階級は一旦増加した後、近年では減少しているのに対し、45～54歳の階級は15年を境に大きく減少し、55～64歳の階級も15年から減少傾向にある。また、65～74歳の階級は横ばいである。なお、75歳以上の階級は10年の際にもあまり急増せず、一貫してなだらかに増加している。

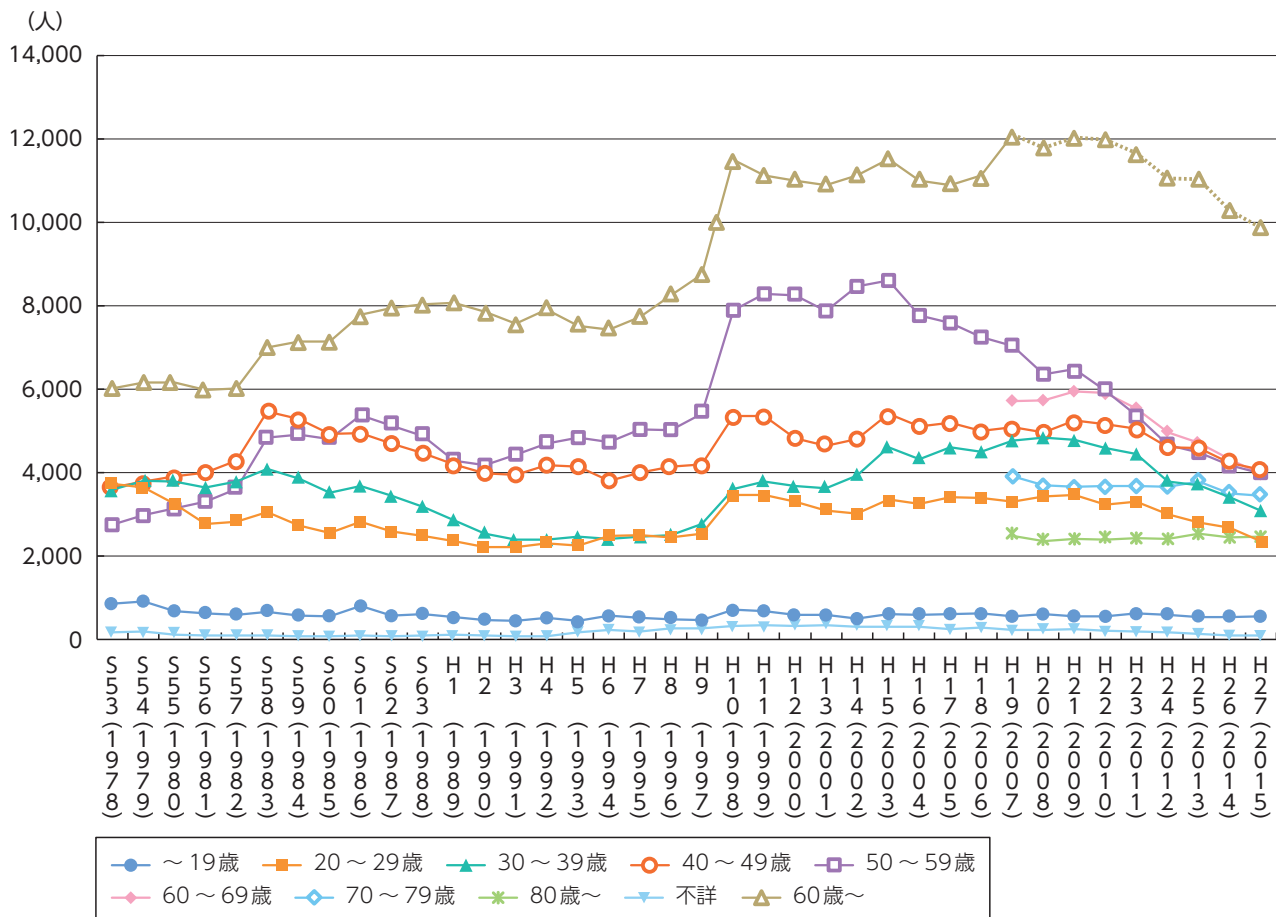
自殺統計をみると（第1-7図）、近年50歳代は減少傾向にあり、年齢階級の設定が人口動態統計とは違うものの、おおむね同様の傾向を示している。

年齢階級別の自殺死亡率の推移をみると（第1-8図）、全体的には40歳代以上では低下傾向にあり、ここ数年は20歳代、30歳代も低下傾向にある。また、20歳代未満では平成10年以降おおむね横ばいである。さらに、男女別にみると、男性は、20歳代が10年以前から上昇傾向にあったが、23年以降は低下を続

けており、30歳代は15年に更に高まった後、そのまま高止まりしていたが、22年以降は低下している。女性は50歳代以上は低下しており、その他の年代では上昇傾向にあったが、24年には低下している。

以上より、自殺死亡率は平成10年に急上昇しその後も高止まりしてきたが、その要因は「中高年男性の自殺死亡率の上昇」だけで説明できるものではなく、変化があることが分かる。

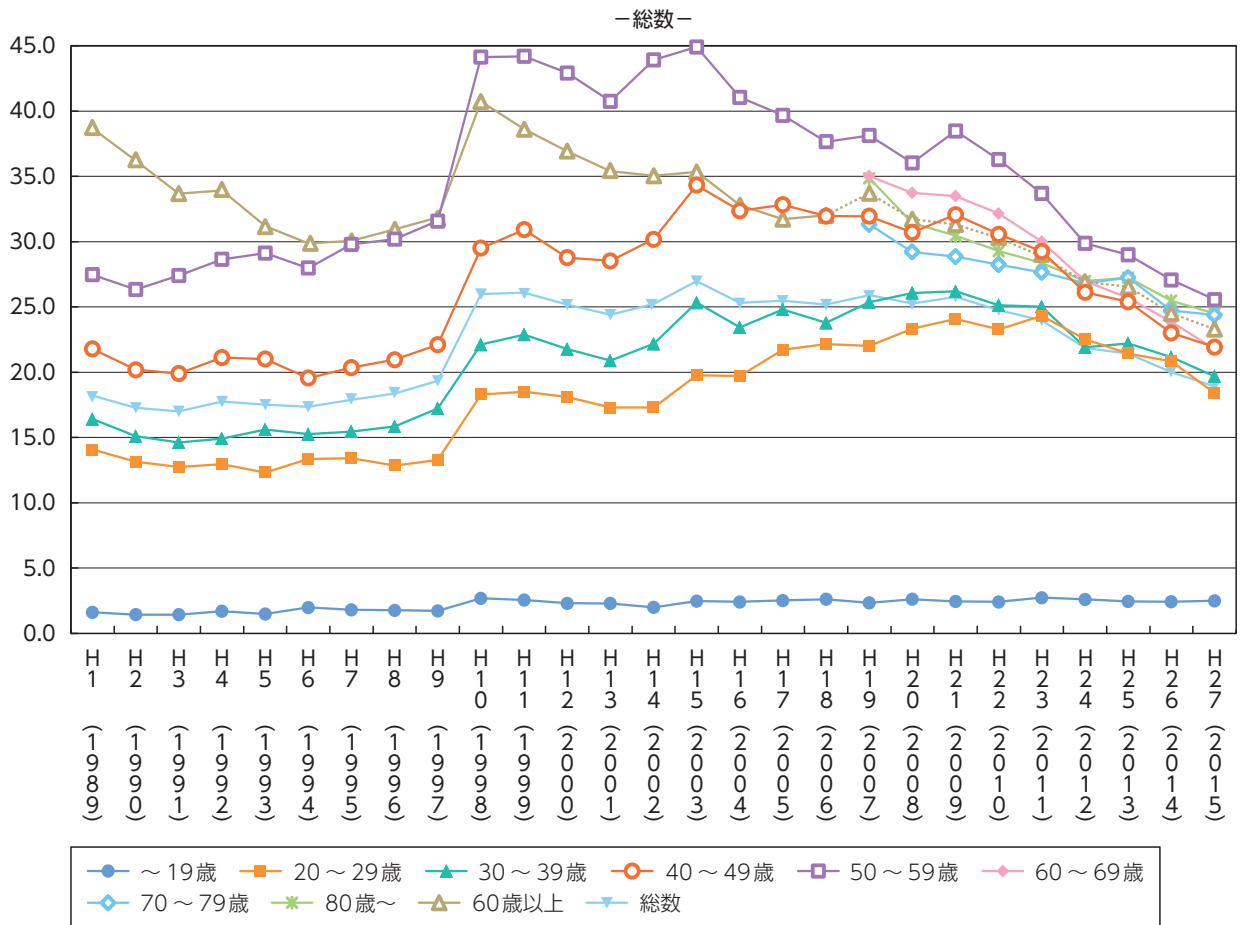
第1-7図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の推移

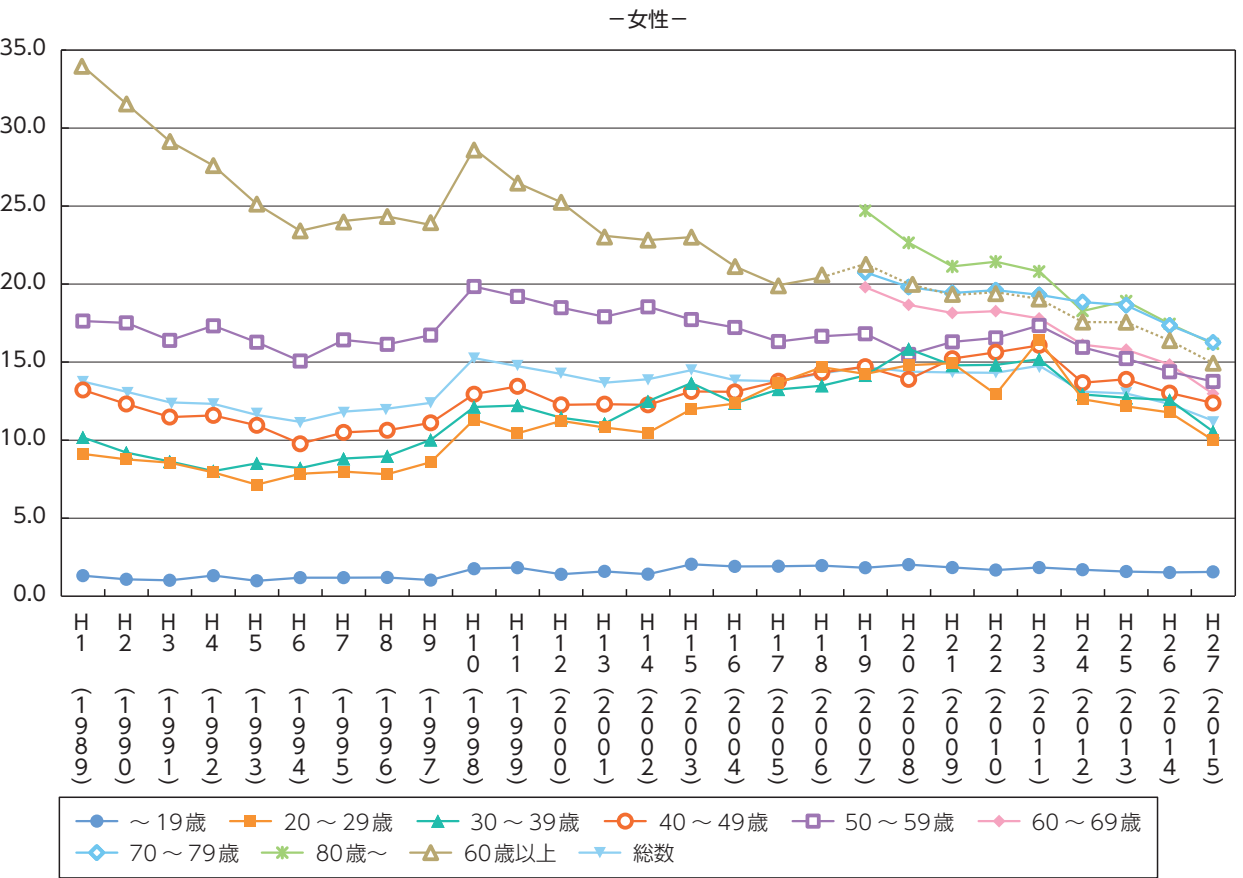
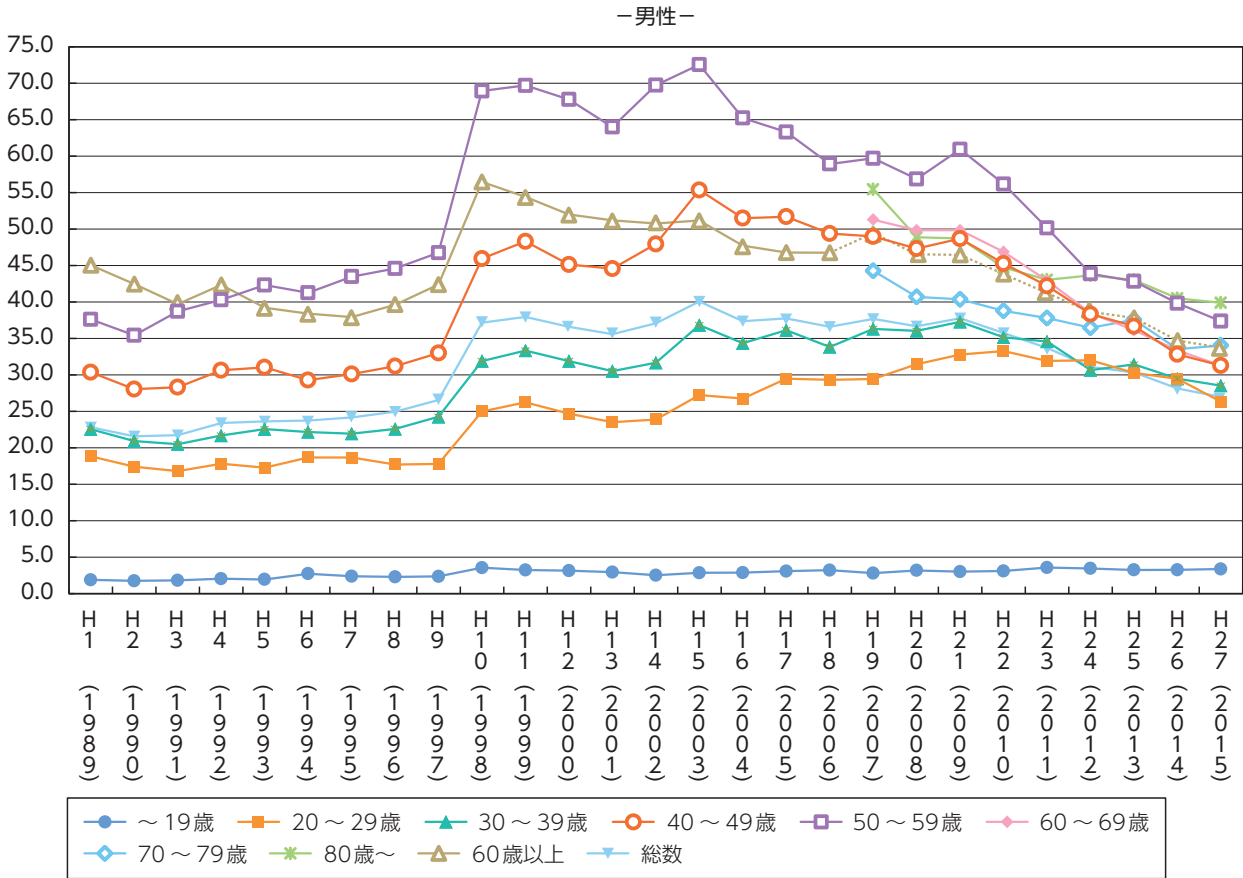


注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-8図 年齢階級別の自殺死亡率の推移





注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。
 資料：警察庁「自殺統計」、総務省「国勢調査」及び総務省「人口推計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にある。年代別の死因順位をみると（第1-9表）、15～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっており、男女別にみると、男性で

は10～44歳という、学生や社会人として社会を牽引する世代において死因順位の第1位が自殺となっており、女性でも15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっている。

第1-9表 平成26年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

総数

年齢階級	第1位					第2位					第3位				
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)			
10～14歳	悪性新生物	101	1.8	20.2	自殺	100	1.8	20.0	不慮の事故	85	1.5	17.0			
15～19歳	自殺	434	7.3	36.0	不慮の事故	312	5.3	25.9	悪性新生物	141	2.4	11.7			
20～24歳	自殺	1,178	19.7	50.8	不慮の事故	382	6.4	16.5	悪性新生物	175	2.9	7.5			
25～29歳	自殺	1,423	22.0	49.5	不慮の事故	388	6.0	13.5	悪性新生物	325	5.0	11.3			
30～34歳	自殺	1,520	20.9	39.0	悪性新生物	698	9.6	17.9	不慮の事故	413	5.7	10.6			
35～39歳	自殺	1,762	20.7	30.0	悪性新生物	1,392	16.4	23.7	心疾患	551	6.5	9.4			
40～44歳	悪性新生物	2,901	30.1	28.8	自殺	2,042	21.2	20.3	心疾患	1,219	12.6	12.1			
45～49歳	悪性新生物	4,683	55.2	34.1	自殺	2,046	24.1	14.9	心疾患	1,719	20.3	12.5			
50～54歳	悪性新生物	7,760	100.9	39.1	心疾患	2,562	33.3	12.9	自殺	2,015	26.2	10.2			
55～59歳	悪性新生物	13,851	182.7	45.7	心疾患	3,689	48.7	12.2	脳血管疾患	2,249	29.7	7.4			
60～64歳	悪性新生物	27,860	312.3	48.6	心疾患	7,133	80.0	12.4	脳血管疾患	3,912	43.9	6.8			

男

年齢階級	第1位					第2位					第3位				
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)			
10～14歳	自殺	67	2.3	21.1	悪性新生物	65	2.2	20.4	不慮の事故	57	2.0	17.9			
15～19歳	自殺	312	10.3	37.1	不慮の事故	242	8.0	28.8	悪性新生物	96	3.2	11.4			
20～24歳	自殺	868	28.2	52.1	不慮の事故	307	10.0	18.4	心疾患	98	3.2	5.9			
25～29歳	自殺	1,042	31.5	53.1	不慮の事故	296	9.0	15.1	悪性新生物	148	4.5	7.5			
30～34歳	自殺	1,088	29.4	42.3	不慮の事故	324	8.7	12.6	悪性新生物	306	8.3	11.9			
35～39歳	自殺	1,241	28.7	33.4	悪性新生物	565	13.1	15.2	心疾患	424	9.8	11.4			
40～44歳	自殺	1,507	30.8	23.4	悪性新生物	1,210	24.7	18.8	心疾患	967	19.7	15.0			
45～49歳	悪性新生物	2,133	49.8	24.4	自殺	1,465	34.2	16.7	心疾患	1,357	31.7	15.5			
50～54歳	悪性新生物	3,948	102.3	30.5	心疾患	2,063	53.4	15.9	自殺	1,496	38.8	11.5			
55～59歳	悪性新生物	7,962	211.2	39.3	心疾患	2,921	77.5	14.4	脳血管疾患	1,599	42.4	7.9			
60～64歳	悪性新生物	17,837	407.3	45.1	心疾患	5,592	127.7	14.1	脳血管疾患	2,743	62.6	6.9			

女

年齢階級	第1位					第2位					第3位				
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)			
10～14歳	悪性新生物	36	1.3	19.7	自殺	33	1.2	18.0	不慮の事故	28	1.0	15.3			
15～19歳	自殺	122	4.2	33.4	不慮の事故	70	2.4	19.2	悪性新生物	45	1.6	12.3			
20～24歳	自殺	310	10.6	47.3	悪性新生物	79	2.7	12.1	不慮の事故	75	2.6	11.5			
25～29歳	自殺	381	12.1	41.8	悪性新生物	177	5.6	19.4	不慮の事故	92	2.9	10.1			
30～34歳	自殺	432	12.1	32.7	悪性新生物	392	11.0	29.7	不慮の事故	89	2.5	6.7			
35～39歳	悪性新生物	827	19.8	38.2	自殺	521	12.4	24.1	心疾患	127	3.0	5.9			
40～44歳	悪性新生物	1,691	35.6	46.8	自殺	535	11.3	14.8	心疾患	252	5.3	7.0			
45～49歳	悪性新生物	2,550	60.7	51.2	自殺	581	13.8	11.7	心疾患	362	8.6	7.3			
50～54歳	悪性新生物	3,812	99.6	55.4	脳血管疾患	567	14.8	8.2	自殺	519	13.6	7.5			
55～59歳	悪性新生物	5,889	154.6	58.7	心疾患	768	20.2	7.7	脳血管疾患	650	17.1	6.5			
60～64歳	悪性新生物	10,023	220.7	56.5	心疾患	1,541	33.9	8.7	脳血管疾患	1,169	25.7	6.6			

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

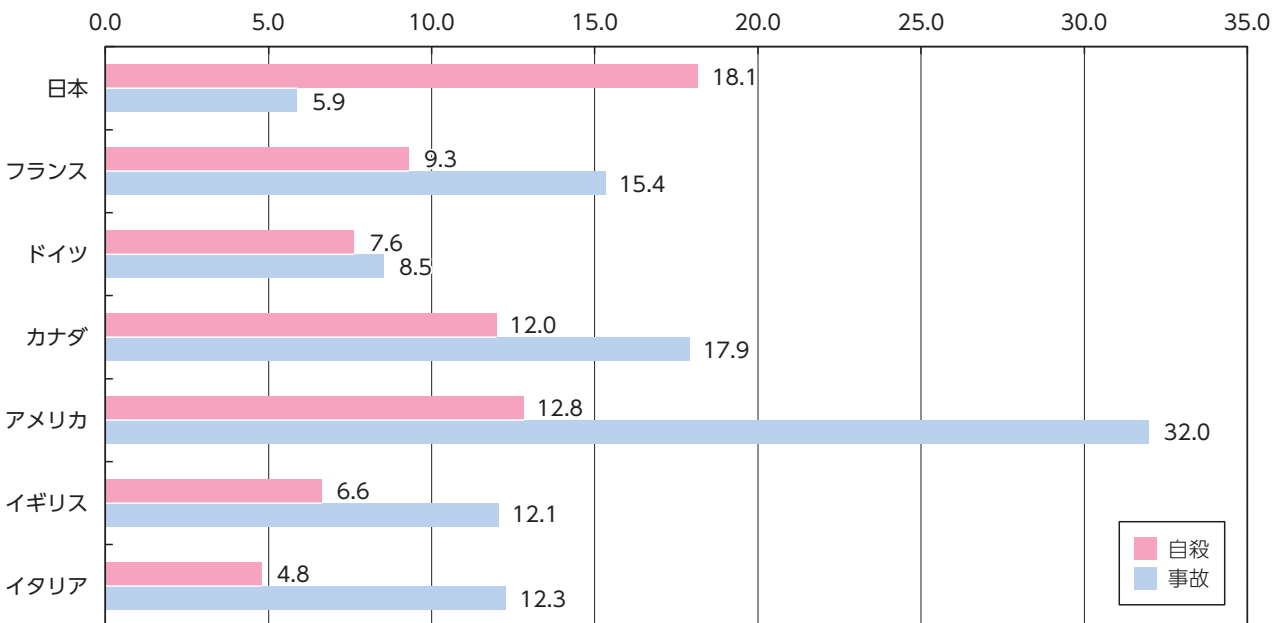
こうした状況は国際的にみても深刻であり（第1-10図）、15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国では

日本のみであり、その死亡率も他の国に比べて高いものとなっている。

第1-10図 先進7カ国の年齢階級別死亡者数及び死亡率（15～34歳、死因の上位3位）

	日本 2013				フランス 2011				ドイツ 2013				カナダ 2011			
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
第1位	自殺	4,731	18.1	事故	2,377	15.4	事故	1,598	8.5	事故	1,558	17.9	事故	1,558	17.9	
第2位	事故	1,533	5.9	自殺	1,440	9.3	自殺	1,428	7.6	自殺	1,043	12.0	自殺	1,043	12.0	
第3位	悪性新生物	1,262	4.8	悪性新生物	1,004	6.5	悪性新生物	1,027	5.5	悪性新生物	502	5.8	悪性新生物	502	5.8	

	アメリカ 2012				イギリス 2013				イタリア 2012				韓国（参考） 2013			
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
第1位	事故	27,586	32.0	事故	2,038	12.1	事故	1,589	12.3	自殺	2,580	18.3	自殺	2,580	18.3	
第2位	自殺	11,068	12.8	自殺	1,120	6.6	悪性新生物	889	6.9	事故	1,225	8.7	事故	1,225	8.7	
第3位	殺人	8,885	10.3	悪性新生物	1,070	6.3	自殺	620	4.8	悪性新生物	874	6.2	悪性新生物	874	6.2	



注意：「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者をいう。

資料：世界保健機関資料、総務省統計局「世界の統計2015」、カナダ統計局「2011 Census of Canada」より厚生労働省自殺対策推進室作成